

千葉大学法政経学部 同窓会会報

第 29 号

2023年1月 発行



<目次>

ご挨拶	P.1
同窓会からのお知らせ	P.3
特集① 会員からの寄稿 早川弘之 氏	P.5
特集② 西千葉キャンパスの風景	P.7
千葉大学・法政経学部トピック	P.11
同窓会役員紹介	P.14

錯（まじ）り集まり文（あや）を成す



千葉大学法政経学部同窓会長

渡辺 雅隆

あけましておめでとうございます。

2023年は激動の余韻のなかで開けました。

あらためて思い起こすまでもなく、昨年は大変な年でした。コロナウイルスと隣り合わせの日々はすっかり日常になり、困難を極めながらも普段の暮らしを取り戻そうと多くの人が前を向いて生きようとするのを横目に、ロシアによるウクライナ侵攻という、およそ21世紀とは思えない「戦争」がはじまりました。終わりは見えません。その影響に円安が重なり、さまざまな形で私たちの日々の暮らしを直撃しています。異常気象や災害による被害も尽きません。国内に目を転じれば、元総理大臣が白昼、選挙運動のさなかに襲撃されて死亡するという痛ましい事件も起きました。多くの被害者を出してきた世界平和統一家庭連合（旧統一教会）と政治家とのかかわりが事件をきっかけに次々と明るみに出て、政治そのものへの不信感も高まっています。

とてつもなく大きな課題を前に個人でできることは限られています。考え方もそれぞれですし、何をすればいいのか、何から手をつければいいのか、なかなか見えません。それでも首をすくめていては将来への責任を果たすことができないし、思考停止は何も生み出さない。そんなことを考えていたら、古巣の朝日新聞社が昨

秋開いた「地球会議—希望と行動が世界を変える—」で、イスラエルの歴史学者でヘブライ大学教授のユヴァル・ノア・ハラリ氏が「一人より信頼できる組織と行動を」と訴えていました。世界中の多くの課題を前に立ちすくむのではなく、自分の気持ちに最も近い問題について行動する組織や団体と一緒に、まずは取り組んでみようという呼びかけです。「人間の真のパワーは『協力』。50人が力を合わせれば、個々の500人よりはるかに強力です」と静かに語りかけるハラリ氏の言葉に共感が広がりました。

一緒に行動したり考えたりする「組織・団体」のひとつとして、ハラリ氏は大学をあげていました。千葉大学はいまや10学部、17大学院を有し「学部の枠を越えた幅広い教養と高度の専門性を修得できるアカデミア環境を整備している」（中山俊憲学長）という有数の総合大学です。2024年には開学75周年を迎えます。さきごろ発表された記念のロゴマーク（右）は10の学部を示す10色で「75」の文字がデザインされ、各学部の特徴と統合を表現したそうです（黄色が法政経学部）。法学、経済学、経営・会計系、政治学・政策学の



4コースを軸に、横断的に学ぶ機会を設けながら「社会諸科学を俯瞰し、高度の専門性を獲得することで社会に貢献する課題解決のプロフェッショナルの育成を目指す」という教育は、まさに時代の要請にこたえるものでしょう。後輩たちのさまざまな分野への挑戦にエールを送り、協力する。再出発したばかりではありますが、そんな同窓会をみなさまとともにつくっていければと思います。

昨年11月26日には同窓会総会が一昨年に続いてリアルとオンラインのハイブリッドで開催されました。同窓会報のデジタル化などの各議題にご理解を賜り、ありがとうございました。

「エール」の一環として、同窓会HP (<https://www.chibalpe-alumni.net>) では、卒業生の体験談や後輩に向けたメッセージの掲載を始めています。卒業生のみなさんの仕事の紹介やその業界に興味がある在学生へのアドバイスなどです。より多くの、そして幅広いジャンルの方々のメッセージが集まれば、さらに充実したものに育っていくはずです。来年度には卒業生の対談などにも取り組んでいこうと役員のみなさんと話しています。ご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。

中国・明代の著述家・洪自誠の随筆集「菜根譚」には腐敗と欺瞞の時代を正しく生き抜く智慧が詰まっています。そのひとつに「錯集成文（錯くまじり集まり文くあやを成す）」があります。原典は自然の豊かさを表わす文脈で使われていますが、多様な個がまじり、集まって輝く社会（組織）は魅力的で強い——とも読め、それは、混沌とした現代にも通じます。実はこの話は奈良のある高僧の受け売りですが、

私はふとこんなことを考えました。法、政、経が揃う学部の上つらえはもとより、法政経学部同窓会もさまざまな経験を積んだ多様な人材の集まりです。きっと、より魅力的で強く、しなやかな会として発展していけるに違いありません。一步ずつ、確実に。そう、願っています。

一陽来復。みなさまにとって幸多き一年になりますように。

令和4年度 同窓会総会について

2022年11月26日（土）に法政経学部同窓会総会を開催いたしました。前回同様、感染対策と遠方の同窓生の利便性を考慮して、対面・オンライン併用での開催となりました。当日は51名の同窓生が参加しました（対面25名、オンライン26名）。審議事項については令和3年度決算、令和4年度予算、同窓会報等の電子化について審議され、原案のとおり承認されました。また、法政経学部1年生向けの「コース選択に向けた参考情報提供サービス」及びTwitterのアカウント開設について報告がありました。今後も毎年1回、総会を開催してまいります。在学当時のご友人と一緒に、是非西千葉キャンパスを訪れてみてください。

会報の電子化に向けた移行措置について

令和4年度総会でご承認いただいたとおり、次号以降の会報は原則として電子版のみを作成し、同窓会ウェブサイトで公開するとともに、メールアドレスを登録いただいている会員にはメールでお送りいたします。また、総会の案内ハガキも廃止し、こちらもウェブサイトおよびメールでの連絡とさせていただきます。

今後は電子化により浮いた予算を有効活用し、現役学生と卒業生会員の出会いの場や情報交換の機会を増やせるような仕掛けを検討してまいりたいと考えています。皆様のご理解とご協力のほど、よろしく願いいたします。

同窓会ウェブサイトは
こちらから



メールアドレスの登録は
こちらから



なお、ご自宅にパソコンやスマホをお持ちでない等のやむを得ない理由により、紙媒体の郵送を希望される方については、個別に発送対応いたしますので、お手数ですがハガキ等にその旨を記載いただき、下記同窓会事務局宛てにお送りください。その際、同窓会への寄付（任意）をお願いさせていただきますので、ご検討頂けますと幸いです。

* 紙媒体の郵送希望は下記まで

〒263-8522 千葉県千葉市稲毛区弥生町1-33 法政経学部同窓会事務局

キャリア形成支援情報提供サービスについて

在学生に向けたサービスとして、同窓会ウェブサイト上に卒業生の体験談やメッセージを掲載する『同窓会の先輩方からの在学生の皆さんへのメッセージ』を開設しました（2022年11月運用開始）。

ここでは有志の同窓会員に協力いただき、在学生へのメッセージとしてご自身のキャリアや学生時代のエピソードを掲載しています。

1年次の学生には所属するコースの選択の参考に、2年次以降の学生にも自身の就職先や進路について考える際の一助になればと考えています。

メッセージは今後も募集しておりますので、もし提供いただける方がいらっしゃいましたら、同窓会事務局まで是非ご連絡ください。

国立大学法人 千葉大学
CUBA UNIVERSITY 法政経学部同窓会

会員登録はこちら 国立大学法人 千葉大学

トップページ 会長挨拶 同窓会報 ニュース イベント情報 在学生の皆様へ

同窓会の先輩方からの 在学生の皆さんへのメッセージ

ホーム > 同窓会の先輩方からの在学生の皆さんへのメッセージ

このページでは先輩方の体験談やメッセージ
 (①自身の仕事 ②自身の仕事の紹介 ③自身の業界へ興味がある在学生の皆さんへのアドバイス) を掲載しています。
 1年次の皆さんは所属するコースの選択に際して参考にする情報としてご参照ください。
 2年次以降の皆さんも、自身の将来のキャリア形成・進路を考える上で参考にしてみてください。
 また、質問等がある場合には同窓会事務局へメールでお問い合わせください。
 ご質問をメールでお送りいただく際には、どの先輩に対する質問が分かるように、対象のイニシャル（または氏名）・卒年・学部・コース（または学科）を明記してください。
 なお、先輩方にはボランティアでご協力いただいております。お忙しい場合には回答が得られないこともありますこと、予めご了承ください。
 ※質問は在学生の方に限定させていただいております。

人文学部 法経学科 1979年（昭和54年）卒 大久保 寿一	人文学部 法経学科 1982年（昭和57年）卒 渡辺 雅隆
法経学部 法学科 1988年（昭和63年）卒 佐藤 栄作	法経学部 経済学科 1998年（平成10年）卒 櫻田 寛子
法経学部 経済学科 2008年（平成20年）卒 大勝 健司	法経学部 経済学科 2011年（平成23年）卒 三富 悠紀



1984年 人文学部卒
早川 弘之

小田急バスの早川と申します。

1979年4月に当時の人文学部法経学科法学専攻に入学し、すぐに葉法会（法律研究会）に入会しました。学園祭での模擬裁判で人寄せのための捕り物劇をキャンパスのあちこちで突然演じたのはいい思い出です。

卒業後、転職がなく（？）公共性の高い会社として小田急電鉄に入社し、主に鉄道の営業部門を経験しましたが、その際に深く関わったICカード乗車券PASMOの開発についてお話ししたいと思います。

PASMOとのかかわり

運輸部旅客営業課で課長をしていた1998年にPASMOの前身となる関東公民鉄の磁気式共通乗車券カード「パスネット」のプロジェクトに参加しました（2000年10月サービス開始）。2002年からパスネット参加社局によるICカード導入検討プロジェクトに参加し、2010年までの8年間、PASMO協議会の事務局長を勤めながら（株）パスモの設立・経営に当たりました。妻とはそのプロジェクトの中で知り合いました。2017年からは加盟バス事業者の社長として再び関わっています。

PASMO開発の経緯

パスネット加盟社局は、Suicaのサービス開始から約1年後の2002年12月にパスネットICカード検討会を発足させ、各社局から人を出して開発検討チームを作り具体的な検討に入りました。まず、パスネット側のICカードをどうするか

で紛糾しました。各社局はそれぞれでの発行を強く主張しましたが、それぞれごとに膨大な開発費用が必要になると説得し、パスネット側として一本化することになりました。バス事業者は鉄道に組み入れられたくないことから、独自カード発行に拘りましたが、やはり膨大な開発費用の面から断念し、パスネットのIC化に加わりました。他方、Suicaの傘下に入る案も出ましたが、これはJR東日本側に丁重に断られました。膨大な数の公民鉄・バス社局を纏める責任は負いたくないというのが理由と聞きました。

2004年1月にパスネット・バス連絡協議会（現PASMO協議会）が設立されて鉄道・バス合わせて100社局が参加し、続いてICカードシステムを開発・発行・運営する会社として2月にパスネット・バスICカード株式会社（現（株）パスモ）が主要会社の出資で設立されました。翌年12月にPASMOデビュー・Suica相互利用記念PASMOは「PASMO」の名称が決定し、2007年3月にサービスを開始しました。同時にSuicaとの関東ICカード相互利用もスタートしました。



▲PASMOデビュー・Suica相互利用記念PASMO

開発・運営資金の確保

（株）パスモを設立してからサービスを開始するまでの3年間は想像もしていなかった苦労の連続でした。PASMOセンターサーバの開発を巡るJR東日本との激しい対立、リーダー不在の開発検討チームと意思決定の容易でない協議会によるブ

プロジェクトの迷走、12億3千万通りもある運賃パターンに対する正確性検証、PASMO側の多
種・多様なIC対応機器に関する40万件15カ月間
にわたるテストなどなど話は尽きません。

PASMO側は多数の事業者の集まりで、どの会社も前に出ようとしないうえ、常にリーダーの欠如とネットワークの悪さ、参加社局のそれぞれの事情の衝突という本質的な問題を抱えていました。その中で、私が担当した開発資金の調達についてお話ししたいと思います。

開発のスタートに当たりすぐに大きな問題となったのが、システム開発等に必要な資金70億円の調達方法でした。当初、私は大手公民鉄10社局(東京メトロ、都営交通、東急電鉄他)が株主なのだから金融機関も担保なしで貸すだろうという甘い考えを持っていました。しかし某大手銀行からの返事は素気無く、筆頭株主がいれば貸すが10社局均等の出資では責任が不明確で貸せない。それではと10社局からの借入、または債務保証を得ようと各社局を回りましたが、各社局の財務体力が大きく異なることから、貸付は利率の統一ができず、連帯債務保証も不公平だと拒否され、当社1社でなら貸すとの申し出には他社が反対するなど、資金調達の経験の全くない私は途方にくれるばかりでした。

幸いにも、コーポレートファイナンスではなく日本政策投資銀行によるプロジェクトファイナンスの提案があり、なんとか開発資金の目途がつけました。ただプロジェクトファイナンスは関係者間の何重にも渡る契約で収益の確保、貸付の回収を担保しますので、「表明保証」をはじめ聞き慣れない契約文書の説明や法的感覚(?)の異なる外資の入った会社への説得には苦労しました。

今になって思うこと

自分自身としては、これまでの会社員人生で最大・最高の体験であり、成果だと思えます。会社を越えた仲間ができ、JR東日本を初め幅広い人脈を得ることができ今もそれは役立っています。資金調達、会社設立・経営、採用・教育、セキュリティなど、小田急電鉄内では経験できない業務を担当できました。PASMOを一時発売中止した際には、NHKから受けたインタビューが夜の7時のニュースで流れ、実家の両親をびっくりさせました。ただ、プロジェクトファイナンスの組成も協議会の運営やルール作りにおけるバランス感覚についても、法学を学びその基礎がなければきっとなし得なかったとつくづく思います。

少し悔いが残っているのは、未体験の仕事にもっともっと果敢にチャレンジすればよかったということです。開発段階における数々の失敗経験は次のシステムリプレースの組織づくりに大きく活かせましたし、あれだけの、そしてもう二度とない機会だったので、例えば失敗しても多くのものが得られたはずだと思うのです。

PASMOプロジェクトの未来

Suicaのサービス開始から20年以上、多様な決済手段が普及しキャッシュレス化が進む中で、交通系についてはICカードに代わる技術革新はまだありません。高速通信やクラウド化、MaaSへの対応など状況は変わってきています。顔認証によりスイスイと改札を通過し、運賃は定期契約割引など自動適用で月末に銀行口座から引き落とされる、15年前に夢想したそんなシステムの実現も、そんなに遠い未来ではないと聞いています。そしてそこでもパスネットやSuica・PASMOの技術・経験がベースとなっているものと確信しています。

特集② 西千葉キャンパスの風景

法政経学部同窓会員の皆様の中には、卒業してからは西千葉キャンパスを訪れる機会に恵まれなかったという方々もいらっしゃると思います。そうした方々に、最近の西千葉キャンパスの風景を写真でお知らせいたします。ご自分が在学されていたことからだいぶ景色が変わったと感じられる方もいらっしゃるのではないのでしょうか。

これらの写真をご覧になりながら、在学していたころの懐かしい思い出など、久しぶりに思い出していただければ幸いです。



正門付近から法政経学部に向かう通路方向をパノラマ撮影したものです。左の建物は「けやき会館」と呼ばれる建物で、3階建てです。様々な学会やイベントが開催されています。新型コロナワクチンの職域接種会場としても利用されていました。



けやき会館を通り過ぎて、法政経学部方面に進んだ場所の写真です。右側と左側の建物を拡大したのが、それぞれ①と②の写真です。何の建物かわかりますか？



図書館が改築され、学生のグループワークなどにも利用可能なスペースを備えた「アカデミックリンクセンター」となりました。



左奥の建物は、学生の生活支援や進路指導等を行う「学生支援プラザ」です。（以前は第一食堂がありました。）

右手前の建物は、学生が自分のペースで語学を学ぶための「イングリッシュハウス」です。（以前は生協ブックセンター等がありました。）



さらに先に進むと、文・法政経学部1号棟・2号棟があります。この辺りは見覚えのある方が多いのではないのでしょうか。

1号棟・2号棟ともに、過去数十年の間、入口の雰囲気はあまり変化していませんので、懐かしいと感じる方も多いと思います。

ただし、1号棟の中は改装されており、事務室や教室の配置が変更されたりしています。



文・法政経学部1号棟（文学部側）の入口



文・法政経学部2号棟（法政経学部側）の入口



最後は学生会館の写真です。
現在はカフェテリア等の食堂があります。



フロアガイド



カフェテリアで提供されているメニュー

西千葉キャンパスの最近の風景はいかがでしたでしょうか？懐かしい、だいぶ変わった、など、それぞれ何かお感じになったのではないのでしょうか。機会がありましたら、是非ご自身でも散策をなさってみてください。

(*)YouTube「国立大学法人千葉大学 公式チャンネル」でも西千葉キャンパスの風景などを動画で配信しています。なお配信内容は変更される場合がありますので予めご了承ください。

2022年10月から原則対面授業に



新型コロナウイルスの影響により、多くの科目がメディア授業となっていました。2022年度当初より徐々に対面授業が開始され、第4ターム開始の10月からは、原則対面授業となりました。受講者数が多い大規模講義も含めてほとんどの科目が対面授業で開講され、法政経学部の建物も多くの法政経学部生でにぎわい始め、新型コロナウイルス前の雰囲気に戻りつつあります。基本的な感染対策を行うことは求められますものの、2020年度以降に入学した学生が、法政経学部の建物で自由に講義を受講できる環境が戻ってきたことは大変喜ばしいことです。

上の写真は、法政経学部の講義室の中で最大の105講義室の講義風景です。新型コロナウイルス感染症以前は当たり前風景でしたが、その当たり前が戻ってきたことを実感する写真です。同窓生の皆様の多くも、105講義室で講義を受講されたことがあると思いますので、懐かしくご覧になっていただけたらと思います。この風景を掲載しました。

* 撮影協力：「中級マクロ経済学」関根先生、受講学生の皆さん
* 撮影日時：2022年10月5日(水)1限

2年ぶりに千葉大祭を開催



1963年の第1回から途切れることなく続いていながらも新型コロナウイルス感染拡大の影響により第58回、第59回と開催を見送っていた千葉大祭ですが、昨年は無事開催となり、11月4日～6日の3日間に渡っておこなわれました。

不織布マスクの着用や飲食スペースや手洗いの貯水式タンクの設置などの感染対策をおこなったうえでの開催となりましたが、学内のみならず近隣住民の方をはじめとした幅広い年齢層の方々が大勢いらっしゃり、テント企画や部屋企画、ステージ発表やストリートパフォーマンス等といった様々な企画を楽しまれていました。

弥生通りや檜通りには主に飲食物を販売するテントが並び、たくさんの来場者でにぎわいました。

法政経学部棟2階では部屋企画として経営・会計系コースの清水馨先生のゼミが企業研究の成果を掲示しました。

また、学術企画では法学コースの川瀬貴之先生が『挑戦し続ける人生哲学』というタイトルで公開講義をおこないました。



▲ 清水馨先生のゼミによる掲示の様子

2021年度に退職された先生

- ・法学研究部門

大林 啓吾（おおばやし けいご）先生（憲法）

佐伯 昌彦（さえき まさひこ）先生（法社会学）

- ・経済学研究部門

小林 弦矢（こばやし げんや）先生（データ解析）

中村 千尋（なかむら ちひろ）先生（西洋経済史）

2022年度に着任された先生

- ・法学研究部門

白石 友行（しらいし ともゆき）先生（民法）

手塚 崇聡（てづか たかとし）先生（憲法）

- ・経済学研究部門

高橋 宏承（たかはし ひろつぐ）先生（経営組織論）

新関 剛史（にいぜき たかし）先生（応用ミクロ計量経済学）

- ・政治学・政策学研究部門

伊藤 恵子（いとう けいこ）先生（国際経済学）

(*）着任された先生の専門分野は、法政経学部HP下記URLより引用（2022年12月時点）
https://www.le.chiba-u.jp/graduatesschool/member/member_field.html

<千葉大学の1年>

- 2021年12月 横浜国立大学と相互の連携・協力に関する協定を締結
- 2022年 4月 教員8名が令和4年度科学技術分野の文部科学大臣表彰を受賞
- 2022年 8月 コロナ禍により中止していた「全員留学」を再開
- 2022年10月 アカデミック・リンク・センター/附属図書館が、Library of the Year 2022 ライブラリアンシップ賞を受賞

詳しくは、千葉大学ホームページの「ニュース・イベント情報」をご覧ください。

<https://www.chiba-u.ac.jp/others/topics/index.html>



同窓会役員紹介

会長	渡辺 雅隆	(1982年卒・人文学部)
副会長・理事	吉田 雅一	(1979年卒・人文学部)
理事・顧問	佐藤 栄作	(1988年卒・法学科、法政経学部長)
理事	尾形 健	(1996年卒・法学科)
理事	櫻田 寛子	(1998年卒・経済学科)
理事	南 友美子	(2006年卒・法学科)
理事	永見 慶子	(2007年卒・法学科)
理事	石見 元太	(2013年卒・法学科)
理事	橋本 祥一郎	(2020年卒・法政経学科)
監事	大久保 壽一	(1979年卒・人文学部)
監事	大勝 健司	(2007年卒・経済学科)
顧問	金原 恭子	(千葉大学理事、前・法政経学部長)

発 行 千葉大学法政経学部同窓会

〒263-8522 千葉市稲毛区弥生町1-33

E-Mail : [chiba.houseikei.dousoukai*gmail.com](mailto:chiba.houseikei.dousoukai@gmail.com)

*をアットマークに変更